

第 3 7 回技術研究発表会 梗概 < I 論文>

C.都市の再考・まちづくり

【HP 掲載No. C05】

発表No.	C05
タイトル	低密度居住誘導区域の土地利用及び人口滞留実態に関する一考察
所属・名前	長岡技術科学大学 丸岡 陽 大日本ダイヤコンサルタント株式会社 益子 慎太郎
キーワード	① 地方都市 ② 立地適正化計画 ③ 人口密度
立地適正化計画に基づき居住誘導に取り組む地方都市の中には、DID 等の要件を参考に、40 人/ha を人口密度の目標値とする事例が散見される。しかし、40 人/ha の市街地が人口減少局面にある今日の地方都市の将来像として適切かどうかは慎重に検討する必要がある。そこで本研究では、地方線引き都市において指定された現状 40 人/ha 前後の低密度な居住誘導区域を対象に、土地利用の構成や、時間帯別の滞留人口密度を分析することで、居住者の密度以外の観点から見た低密度居住誘導区域の実態を明らかにすることを目的とする。 分析の結果、公共施設用地や農地等を内包する区域指定が低密度さに繋がること、夜間は低密度な居住誘導区域でも昼間は密度が向上する都市があることが明らかとなった。今後、市街地密度が低い市町村が立適を策定する際、居住者の密度に限らない多様な観点でコンパクトシティ像を検討することが望まれる。	